

日時 令和5年1月24日（火）午後7時から

場所 地域福祉センター1階多目的ホール

事務局 副村長

村役場総務課長

支庁土木課長

支庁土木課道路河川担当

参加者 6名

開会、開会挨拶、説明、閉会挨拶

○以上の項目は、「23.01.24 第5回行文線未整備区間の整備再開に向けた村民説明会（昼の部）」議事録と同様のため、省略

質疑応答

○司会 これより質疑応答に移らせていただきます。どなたかご質問がございましたら、挙手をお願いいたします。

○参加者 ちょっと教えていただきたいのですが、旭橋を整備している時にですね、一か月間の通行止めと言うことでありますけど、例えば上に整備工場がありますよね。この1ヶ月間は整備工場に車でアクセスができないと言う形になるのでしょうか。

○支庁 事前に整備工場さんとお話をしていて、その期間についてはどうしても高さが出てしまいますので、迂回していただき、扇浦のほうからアクセスしていただくような形になります。

○参加者 あと二点ほど質問があるのですが、津波が実際に起きた時に、西町の方から、この行文線を使うというときにこれは逆側からの津波発生には通行止めにするのですか。整備工場の方は一方通行規制をしないで、相互通行という形なのですかね、今考えていることは。

○支庁 道路は全ての相互通行可能ですので、そこについては清瀬側から奥村も行きますし、奥村から清瀬側もいけます。そこは問題ないですね。そのため、道路幅員が今7mで計画しているのですが、相互通行可能です。

○参加者 そうするとあれですかね。西町の方から、その行文線を使った。まあ津波がでたとき、皆さんパニックになる可能性があるんで、いろいろ清瀬の途中からも車がやってくる、西町からの車がやってくる、あと奥村の方は、まあその線に入ってくるっていうことは、奥村から整備工場の方に抜ける時に、その夜明道路からこの行文線に入るっていうところの交通規制はかるのですか。

○支庁 実際にその規制ですとか、完成後のお話ですよ。完成後のオペレーションについては、具体的にその震災発生してどういうオペレーションかけるかっていうところは、例えば、村さんですとか、交通管理者である警察と、引き続きその辺の話をしていかなきゃいけないのですが、今ところ、必要最小限の規制は、例えば一時停止ですとかっていうのがあるので、それに従っていただくという形になります。

○参加者 あと最後にもう一つ教えてください。あの橋の杭を入れるのですが、杭の長さっていうのはあそこの岩盤の中に杭を打ち込んで、その上に橋を作っていくというような形に見受けられたのですが、それはどれだけの長さが入るのですか。

○支庁 場所にもよるのですが、杭は主に地盤の中に5mはいります。あとは地形によって、飛び出してくるところの高さも変わります。そういったものを事前の調査で調べた中で杭の配置と長さを決めさせていただいております。

○参加者 そうするとあの岩盤中に入る長さは5mだと、どこの場所でも、上に出る場所はその標高差によって違うと思うのですが、中に入ることは5mで全部統一されていくと言うことで、あの仮栈橋を作って工事を進めて行くのですが、これのメンテナンス保証ですね、9年かけてやるのですが、こういう橋って一生を持つものじゃないですよ。どこかでメンテナンスしないといけないといった時に、仮栈橋が、また必要になる可能性っていうのはあるのでしょうか。

○支庁 一般的なメンテナンスといいますと、塗装の塗替えになるので、その際に仮栈橋は必要となりません。足場を工夫して設けて、そこを足がかりに作業するということなのですが、大規模な補修が必要になるってということになりますと、またその状況に応じて、どのような工事ができるかという検討をしてみたいと思います。少なくともこのような大規模な仮栈橋を設けることはないと考えております。

○参加者 分かりました。

○司会者 他にまたご質問ございましたら、挙手をお願いいたします。

○支庁 あの鋼製栈道は防錆塗装をしまして、既に実績はですね、八丈島ですとか大島でもあるのですが、その数十年持つような塗装は施した上で、長寿命化計画で今後30年以上かけてどうやっていくか計画に基づきやっていきますので、その構造自体をまたゼロから何かするということは基本的にありません。

正直、今回の一番大きい所は、先ほど説明しました旭橋の補強による規制っていうところで1ヶ月と説明しています。引き続きこちらについては、我々支庁側からの情報発信ですとか、村さんと連携しながら皆さんへ具体的にいつやるのかですとか、その辺は説明というか、情報共有していきたいというふうに考えているところです。どうしても、今回この案についても、いろいろさまざま検討したのですが、現道幅員が狭い分、如何せん、この方法しかないといったところで苦肉の策を出しているところです。なので、皆さんにはご迷惑をおかけするのですが、極力その影響が少ないような情報発信をしていきたいというふうに思っています。

○参加者 これ、工事を進めていく上で、天候に左右されるかと思うのですが、天候が悪天候で雨とかですね。そういった時は、工事をストップして、その工期が長くなるという方向で考えるべきなのですかね。

○支庁 そうですね。どうしても、工事の内容にもよるのですが、明かり部で何も屋根がない所で行う工事については、天候に大きく左右されますので、雨の時は休工という形になると思います。

○参加者 そうすると、このスケジュールは前倒しになることはないけど、後ろにずれることは大いに考えられるということですか。

○支庁 そういことがないように調整をしていくのですが、どうしても受注者あつての工事で

ありますので、そこは発注者である我々と引き続き調整するしかないかなということで、昨年もこの説明した時に、概算で9年ぐらいかかりますと話をしたのですが、防災道路の整備を急いで何とかならないのかという話をいただきました。ただ、その予算の工事発注ロットを変えるにしても、どうしても最初冒頭もお話しました通り、片側から工事施工しないといけない関係上、なかなかこの工程は変えられないといったところで、今回も具体的に令和14年までということを示しているところです。

○司会者 他に質問はございますか。

○参加者 調査はもうすべて終わっているかと思うのですが、あの近辺だとかなりの洞窟が下にある。杭を打ち込んだ時に、ちょうど今見ている川がかかるところにもかなりあります。僕も何回か入ったことがあるので。そういう洞窟があって、上から杭を入れた時にぶつかったりなんかするっていうことはないのですかね。崩れるとか。

○支庁 もともとここには地下壕がかなりの数、140カ所以上あるといったところもありまして、事前に我々の方で調査しまして、影響範囲についてはそれを3Dで把握した上で、平面と立体的に両方を見た上でこの杭配置についてはしているところですが、最小限の影響っていうところで配置はしているのですが、どうしても近接する箇所、どうしても埋戻さないといけない箇所についてはあります。そちらについては、昨年の説明会で一部説明させていただいたのですが、充填するとか、そういう対応を取らざるを得ないといったところです。前年調査した、地下壕の状況ですとか、取得したデータにつきましては、我々でも保管していますので、それをどう生かすかっていうところで、村さんと調整しているところです。

○司会者 質問はございますか。よろしいですかね。それでは質疑応答は終了とさせていただきます。